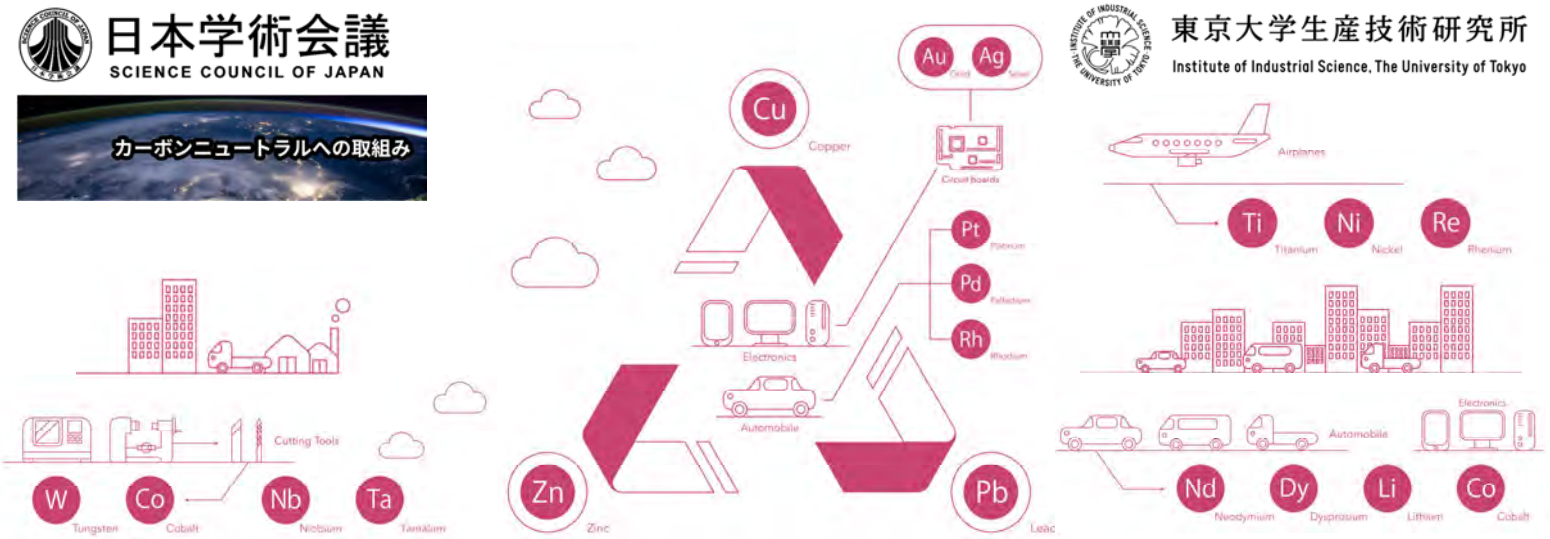
日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

東京大学生産技術研究所
Institute of Industrial Science, The University of Tokyo



日本学術会議 公開シンポジウム

なぜＳＤＧｓ？

～資源・材料循環におけるSDGsとカーボンニュートラル～

資源材料循環は、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」に密接に関係している。昨今のカーボンニュートラル政策においても、一層重要視されており、社会システム的にも技術的にも変革が求められている。資源循環に対する課題は物質ごとに大きく異なるが、本シンポジウムでは、特に蓄電池などに使用される金属資源の循環に関して、その現状と課題を俯瞰し、市民と共に理想的な資源材料循環のあり方を議論する場としたい。

日時: 2022/11/18 (金) 14:00～18:00 (開場 13:30) オンライン配信

場所：　東京大学 生産技術研究所 An棟2F コンベンションホール
(新型コロナウイルス感染予防のため、現地参加は講演者とその関係者のみに制限しております。)

主催：　日本学術会議 材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同
SDGsのための資源・材料の循環使用検討分科会

共催：　東京大学 生産技術研究所 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門 (JX金属寄付ユニット)、
東京大学 生産技術研究所 持続型材料エネルギーインテグレーション研究センター

14：00　開会の挨拶　岡部　徹　　日本学術会議 第三部連携会員、東京大学 生産技術研究所 所長・教授

14：10　講演「法政策からみたサーキュラーエコノミー」
大塚　直　　日本学術会議 第一部会員、早稲田大学 教授

15：00　講演「カーボンニュートラルと資源循環の両立の重要性と難しさ」
森口　祐一　日本学術会議 第三部連携会員、国立環境研究所 理事

15：50　講演「蓄電池のサステナビリティ検討に対する取り組み」
武尾　伸隆　経済産業省 電池産業室 室長

17：00　パネルディスカッション
<パネラー> 上記講演者に加え、
森部　昌一　(株)三菱総合研究所 サステナビリティ本部 環境イノベーショングループリーダー
森田　一樹　日本学術会議 第三部連携会員、東京大学 教授
<ファシリテーター> 所　千晴　日本学術会議 第三部会員、早稲田大学・東京大学 教授

17：50　閉会の挨拶　笹木　圭子　日本学術会議 第三部連携会員、九州大学 教授

オンライン配信URL：
・Zoomウェビナー：https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_8E3yBo_IQ3uxguNnRLkYZw
・YouTube：https://www.youtube.com/watch?v=ykWv5Vu9XsU

お問い合せ：　早稲田大学 教授　所　千晴
tokoro@waseda.jp

Zoomウェビナー　YouTube

公開シンポジウム

東日本大震災に係る食料問題フォーラム2022

―原子力災害11年の総括と福島県農林水産業の復興―

東日本大震災・原発事故から11年半が経過した。原子力災害を経験した福島県、特に浜通りの地域産業は、事故後の社会変動により生産構造、市場構造が大きく変化した。原発事故とそれに伴う放射能汚染問題は、福島県産農産物のブランド価値を低下させることとなった。震災後10年を機に、避難地域の解除、復興政策の再編、福島国際研究教育機構の設置、ALPS処理水対策などの取り組みが進んでいる。地域がこのような大きな転換点を迎えるにあたって、この間の放射能汚染対策の総括とそれに基づく正確な情報を国内外に発信する必要がある。そこで本フォーラムでは、事故からの11年を振り返り、農林水産業の現場における活動および食品の流通から食卓までの安全の取り組みを消費者や生活者の視点も踏まえながら議論し、福島県農林水産業と地域の復興の加速に資することを目指すこととする。

令和4年

11月19日(土)

13:30～17:00

双葉町産業交流センター
(福島県双葉郡双葉町中野高田1番地1)

対面・オンラインハイブリッド開催

https://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg1_221119/

参加希望者は事前登録をお願いします

主　催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会
後　援：日本農学アカデミー、公益社団法人日本水産学会、公益社団法人日本畜産学会、日本農業経済学会、公益社団法人日本農芸化学会、農業食料工学会、国立大学法人福島大学、公立大学法人福島県立医科大学、国立大学法人長崎大学福島未来創造支援研究センター、国立大学法人東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、東日本大震災・原子力災害伝承館

司 会：渡部 終五
(日本学術会議連携会員、北里大学海洋生命科学部客員教授)

13:30　**開会の挨拶**
―中嶋 康博
(日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

13:40　**農業の11年の総括と展望：**
―小山 良太
(日本学術会議連携会員、福島大学食農学類教授)
―清水 裕香里
(特定非営利活動法人Jin代表)

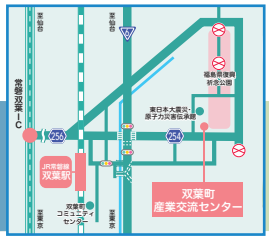
14:20　**水産業の11年の総括と展望：**
―八木 信行
(日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
―野崎　哲
(福島県漁業協同組合連合会会長)

15:00　休憩

15:10　**地域の暮らしの11年の総括と展望：**
―丹波 史紀
(立命館大学産業社会学部教授)
―橋本 靖治
(双葉町秘書広報課長)

15:50　**総合討論**
―小山 良太　―清水裕香里　―丹波 史紀
―中嶋 康博　―野崎 哲　―橋本 靖治
―八木 信行
―関谷 直也
(日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環准教授)
―那須 民江
(日本学術会議連携会員、中部大学生命健康科学部客員教授)
総合討論司会：葛西 優香
(東日本大震災・原子力災害伝承館常任研究員)

16:50　**閉会の挨拶**
―眞鍋 昇
(日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授)



問合先　東京大学農学生命科学研究科アグリコクーン産学官民連携室
e-mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp URL: www.agc.a.u-tokyo.ac.jp
tel: 03-5841-8882 fax: 03-5841-8883

日本学術会議主催シンポジウム

2022年11月19日（土）　14：00～17：00

オンライン配信
（一般公開）

人類学者と語る
人間の「ちがい」と差別

近年、日本社会の多様化が進むなかでも、外見や出自、性別等による差別がさまざまな問題を引き起こしています。本シンポジウムでは、人間の「ちがい」と思われているものの実体は何か、偏見や差別を乗り越えるためにどのような知識と意識が武器となりうるのか、高校生と自然人類学者、文化人類学者が、ともに考えます。

プログラム

14:00-14:10　**開会の挨拶**

宮崎恒二（人間文化研究機構）

14:10-15:35　**第一部　人類学者からの話題提供**

司会：　馬場悠男（国立科学博物館）

基調講演　**山極 壽一**（総合地球環境学研究所）
動物に対する誤解から人間社会の本質を考える

話題１　**海部 陽介**（東京大学）
10万年の人類史から読み解く人間の多様性

話題２　**小金渕 佳江**（東京大学）
多様性が生まれるその背景 –遺伝学の視点から–

話題３　**竹沢 泰子**（京都大学）
創られた「人種」「民族」が残したもの

話題４　**中谷 文美**（岡山大学）
「女」「男」カテゴリーの「ちがい」が意味するもの

15:35-15:50　＜休憩＞

15:50-16:45　**第二部　全体討論**　人類学者 × 高校生
司会：　高校生

16:45　**閉会の挨拶**

主　催：日本学術会議統合生物学委員会自然人類学分科会、
地域研究委員会文化人類学分科会、地域研究委員会多文化共生分科会
共　催：科学研究費基盤(S)「人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究」
後　援：東京都教育委員会、日本人類学会、日本文化人類学会

お問い合わせ
2022jinruigakusympo@gmail.com

参加申し込み

締め切り
11/15（火）

https://forms.gle/545t71dcwSKLRobU7

上記リンク、または「日本学術会議」のサイトの「公開シンポジウム」のページからお申し込みください。

日本学術会議 公開シンポジウム 主 催：日本学術会議物理学委員会

物理学のアプローチが開く世界とその展開

日 時： 令和４年11月20日(日)12:30～17:45(日本学術会議講堂・ハイブリッド)

申し込み方法： オンライン登録 https://forms.gle/JUmESZFL6PDL3HLC8

物質の性質、天体活動、宇宙の成り立ちなど一見異なる現象を幅広く取り扱う物理学は、数理や先端的な技術に基づく現象の解明を基盤とし発展を続けています。このシンポジウムは、「未来の物理学の広がり」を出来るだけ分かり易く講演者が解説し、基礎科学の重要性を改めて考え、次世代育成に何が必要か、参加者と共に考えます。

12:30～ 挨拶 趣旨説明

野尻 美保子(第三部会員 物理学委員会委員長 KEK 素粒子原子核研究所 教授)

梶田 隆章(日本学術会議会長 第三部会員 東京大学宇宙線研究所 教授)

田島 節子(連携会員 大阪大学名誉教授 日本物理学会 会長)

12:45～14:15 第1セッション 物理学のアプローチ～自然の理解とその展開 I

司会 森 初果(第三部会員 東京大学物性研究所教授 所長)

高柳 匡(京都大学基礎物理学研究所 教授)「量子ビットから生まれる宇宙」

有馬 孝尚 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授)「物質科学研究における先端計測」

唯 美津木(連携会員、名古屋大学物質科学国際研究センター 教授)「反応の可視化がもたらす知と物質科学の進展」

14:30～16:30 第2セッション 物理学のアプローチ～自然の理解とその展開 II

司会 市川 温子(連携会員 東北大学大学院理学研究科教授)

深川 美里(連携会員 自然科学研究機構国立天文台 教授)「宇宙における惑星系の誕生」

浅井 歩(連携会員 京都大学大学院理学研究科附属天文台 准教授) 「太陽活動と地球」

吉田 善章(連携会員 自然科学研究機構 核融合科学研究所 所長)「プラズマサイエンスの未来」

齊藤 直人(KEK 素粒子原子核研究所 所長) 「加速器で明らかにする宇宙と物質の起源と進化」

©NAO

16:45～17:45 第3セッション 物理というキャリアパス

司会 生田 ちさと(連携会員 JAXA 准教授)

総合討論 モデレーター 中野 貴志(連携会員 大阪大学核物理研究センター 教授)

コメント

奥村 幸子(連携会員 日本女子大学理学部数物情報科学科 教授)「天文学キャリアパスアンケートから」

岡 眞(連携会員 日本原子力開発機構先端基礎研究センター 研究員)「物理教育における諸課題」

閉会挨拶 腰原 伸也(第三部会員 東京工業大学理学院 教授)

©Belle II/ KEK

参加登録 https://forms.gle/JUmESZFL6PDL3HLC8 →

共催： 一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本天文学会、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、大阪大学核物理研究センター、大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所、九州大学応用力学研究所、京都大学基礎物理学研究所、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構、東京大学宇宙線研究所、東京大学物性研究所 後援： 公益財団法人応用物理学会

日本学術会議公開シンポジウム

気候変動時代における市町村による新たな
森林管理とゾーニング

日　時

令和4年11月20日(日)

13:00～15:30

オンライン開催

開 催 趣 旨

2019年に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」と「森林経営管理法」が成立し、市町村が主体となった地域の森林管理が推進されることになった。本シンポジウムでは、温暖化対策や地域づくり、国土利用計画など多様な視点から森林の管理やゾーニングのあり方について議論する。

総合司会:　田中 和博

開会挨拶:　丹下 健　（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

趣旨説明:　田中 和博　（日本学術会議特任連携会員、京都先端科学大学バイオ環境学部教授）

基調講演　「市町村による新たな森林管理の時代を迎えて」

土屋 俊幸　（東京農工大学名誉教授）

パネルディスカッション

進　行:　井上 真理子　（日本学術会議連携会員、森林総合研究所多摩森林科学園主任研究員）

コメンテーター:　田中　和博

話題提供

緩和策と適応策の視点による森林ゾーニング	森　章	（日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センター教授）
森林経営の視点による森林ゾーニング	光田 靖	（宮崎大学農学部教授）
減災・防災の視点による森林ゾーニング	徳地 直子	（日本学術会議連携会員、京都大学 フィールド科学教育研究センター教授）
市町村による森林管理の現状と課題	和田 透	（岐阜県郡上市農林水産部林務課長）
	河合 智	（郡上森林マネジメント協議会事務局次長）

閉会挨拶:　杉山 淳司　（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

○主 催: 日本学術会議農学委員会林学分科会　○後 援: 一般社団法人日本森林学会、一般社団法人日本木材学会

○申 込: tange@fr.a.u-tokyo.ac.jpへ、氏名・所属・アドレスをお知らせ下さい（**11月15日(火)締切**）

日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

2022年 11月21日(月) 13:00-17:30

東京大学医科学研究所　講堂(1号館1階)
https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam04_01_08_j.html
Webinarによるハイブリッド開催

主催：日本学術会議
「先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会」
薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・
機械工学委員会・材料工学委員会・臨床医学委員会　合同

日本学術会議 公開シンポジウム

新興医療評価技術の適格性認定システムの構築とその課題

バイオマーカー、モデル疾患動物、臓器チップ等の動物実験代替技術などの医療製品の有効性、安全性、品質を評価するための新しい方法は「医療評価技術」(英語ではDevelopment tool)と総称されます。

医療評価技術は科学技術の進歩とともに更新されていく必要があり、医療評価技術の進歩は医療の進歩と直結しています。レギュレーションの進歩なくして、イノベーションの実現は望めず、21世紀に開発された製品を20世紀の方法で評価していては正しい評価は期待できません。

しかしながら、新しい評価方法を採用するにはエビデンスが十分に揃っていないことが多く、評価方法が妥当かどうかをエビデンスとともに検証し、薬事申請におけるデータ取得に使ってよいという「適格性認定」を積極的に付与していく「仕組み」を用意しておくことが求められています。

シンポジウムでは、こうした医療評価技術の適格性認定を迅速に実施する仕組みをどのようにデザインしていくかについて、海外で実施されている評価技術の適格性認定(Development tool qualification)の動向も踏まえ、産官学で意見交換を行います。

■ 問合先
東京大学大学院新領域創成科学研究科
生命棟事務室 mail: sympo@bioip-lab.org

入場無料

参加事前登録フォーム
会場参加(100名)、Webinar参加(500名)
ともに同一フォームから参加登録
https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_iGzycwiXSQ-t7WnWEDt18w

開会挨拶　13:00
■ 望月 眞弓　日本学術会議副会長, 第二部会員. 慶應義塾大学名誉教授

来賓挨拶
■ 松尾 泰樹　内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長

Session 1　13:10-14:40
新興医療技術の利用ルール整備における ルール・オブ・ルールの役割

分科会報告：分科会の5つの提案とルール・オブ・ルールの役割：評価技術の適格性認定システムの効率性と透明性の確保に向けて　13:10
■ 加納 信吾　日本学術会議連携会員, 東京大学大学院新領域創成研究科 教授

再生医療分野における評価技術の適格性認定の現状と課題　13:25
■ 澤　芳樹　日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻未来医療学寄附講座 特任教授

医療機器分野の評価技術の適格性認定システムを巡って　13:40
■ 菊地　眞　公益財団法人医療機器センター　理事長

医薬分野における評価技術の適格性認定問題を考える　13:55
■ 森　和彦　日本製薬工業協会　専務理事

パネルディスカッション：評価技術の適格性認定ニーズと日本の課題　14:10-14:40
■ モデレータ　関野　祐子　日本学術会議連携会員 東京大学大学院農学系研究科　特任教授
■ パネリスト　坂田 亮太郎　日経バイオテク　編集長

＜休憩　14:40-14:50＞

Session 2　14:50-16:20
日本版ルール・オブ・ルール構築に向けた課題

分科会報告：新興科学技術のガバナンス手段としての評価技術の適格性評価　14:50
■ 城山 英明　日本学術会議連携会員, 東京大学大学院法学政治学研究科 教授

開発ガイドライン策定のためのガイドライン整備と評価技術　15:05
■ 廣瀬 大也　経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 室長

評価技術の育成・評価のための研究開発支援について　15:20
■ 髙江 慎一　厚生労働省 大臣官房 厚生科学課 研究企画官

提言実行に向けたリソース面からの課題　15:35
■ 合田 幸広　日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所　所長

パネルディスカッション：日本版development tool qualificationのデザインに向けて　15:50-16:20
■ モデレータ　城山 英明　日本学術会議連携会員 東京大学大学院法学政治学研究科　教授
■ パネリスト　長野 裕子　内閣府　健康・医療戦略推進事務局　次長

＜休憩　16:20-16:30＞

Session 3　16:30-17:25
具体的なケースから考える

OECDテストガイダンス作成の経験から見たツールガイダンス整備の課題　16:30
■ 小嶋　肇　国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 規制科学事業PO、国立医薬品食品衛生研究所 特別研究員

再生医療製品における開発ツール整備の必要性　16:45
■ 畠 賢一郎　一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム 代表理事 会長

パネルディスカッション：イノベーター視点から見た評価技術の適格性認定　17:00-17:25
■ モデレータ　林　裕子　日本学術会議連携会員, 山口大学大学院 技術経営研究科　教授(特命)
■ パネリスト　佐久間 一郎　東京大学大学院工学系研究科　教授
■ パネリスト　井上 純一郎　日本学術会議連携会員 東京大学　特命教授

閉会挨拶　17:25
■ 佐治 英郎　日本学術会議連携会員, 京都大学 特任教授 名誉教授

日本学術会議　公開シンポジウム

水産からカーボンニュートラルの未来を展望する

気候変動と水産業の関連分野においては、カーボンニュートラルに向けて水産業及び関連する研究分野の貢献はどうあるべきかについての議論が活発化している。大気中の二酸化炭素は海洋にも吸収され、海洋生物によって取り込まれた炭素はブルーカーボンと呼ばれる。一方で海洋生物は二酸化炭素を排出するため、正味吸収がどの程度あるのか実態を把握する研究が進んでいる。また微細藻類を活用したバイオ燃料生産についても高い関心を集め、多くの研究が進行している。さらに、世界各地で生産された食材が食卓に上るようになった結果、フードシステムからの温室効果ガス排出量も拡大している。水産物の中には二酸化炭素等の排出量が低いとされる種類もあり、この特性をどう活用するかも社会的な課題といえる。本公開シンポジウムは、これらに関する現状と課題の整理を行い、水産業や海洋生物を活用したカーボンニュートラルの未来を展望し、アカデミアにとどまらず広く社会の人々と問題意識の共有を目指すものである。

令和4年
11月25日（金）
13：00-17：15
オンライン開催
（Zoomウェビナー）
参加費無料

プログラム

13:00-13:10　開会挨拶と趣旨説明　　古谷 研（創価大学プランクトン工学研究所、日本学術会議連携会員）

第1セッション：基調講演　　座　長：大越和加（東北大学大学院農学研究科、日本学術会議第二部会員）

13:10-13:50　基調講演1「海の生態系とカーボンニュートラル」
堀 正和（国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所）

13:50-14:30　基調講演2「ブルーカーボン：その役割と貢献」
桑江朝比呂（国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所、ジャパンブルーエコノミー技術研究組合（JBE））

第2セッション：事例報告　　座　長：笠井久会（北海道大学大学院水産科学研究院、日本学術会議連携会員）

14:40-15:10　事例報告1「微細藻類の活用とカーボンニュートラル」
岡田　茂（東京大学大学院農学生命科学研究科）

15:10-15:40　事例報告2「北西太平洋地域行動計画におけるアマモ場ブルーカーボン推計の国際的取組み」
寺内元基（公益財団法人 環日本海環境協力センター（NPEC））

15:40-16:10　事例報告3「水産業におけるカーボンフットプリント：銚子に水揚げされる国産のサバを事例として」
松岡良司（松岡水産（株））

第3セッション：総合討論　　座長　八木信行（東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議連携会員）

16:10-17:10　パネリスト：　堀 正和、桑江朝比呂、飯田ひかり（飯田水産（株））、
中田 薫（国立研究開発法人 水産研究・教育機構、日本学術会議連携会員）

17:10-17:15　閉会の挨拶　　佐藤秀一（福井県立大学海洋生物資源学部、日本学術会議連携会員）

主　催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会
共　催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会
後　援：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会

Zoom ウェビナーによるオンライン開催　参加申込方法（定員 1,000名）

参加をご希望の方は、11月19日（土）までに、下記URLまたは右にあるQRコードで参加申し込みサイトにアクセスして必要事項を入力のうえ、申し込みください。
https://forms.gle/NKJ4JUWp8eQQJNHD7
お申し込みいただいた方には、開催日までに、視聴用URLをメールにてご連絡いたします。

お問い合わせ先

高橋 一生（水産・海洋科学研究連絡協議会幹事）
〒113－8657　東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科
TEL: 03-5841-5290　FAX: 03-5841-5308　E-mail: kazutakahashi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

公開シンポジウム

21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？

2006年4月の入学者から薬剤師国家試験の受験資格が原則として6年制学部・学科の卒業生に限定されたことに伴い、国公立大学及び一部の私立の薬学部は、6年制学部と4年制学部を併設した。

2017年の新4年制課程入学者までは一定の条件を満たすことで薬剤師国家試験受験資格が与えられていたが、現在では6年制学部を卒業しなければ薬剤師の国家試験を受けることはできない。

これを機に、複数の大学で新しい人材育成を目指した教育システムへの移行が進んでいる。

本シンポジウムでは、これらの背景をふまえ、今後の薬学教育の向かう方向について議論する。

PROGRAM

総合司会 樋口 恒彦 日本学術会議連携会員、名古屋市立大院薬・名誉教授

13:00 開会の辞 佐々木 茂貴 長崎国際大薬・教授、公益社団法人日本薬学会会頭

13:10 趣旨説明 永次 史 日本学術会議連携会員、東北大多元研・教授

座長 庭山 聡美 日本学術会議連携会員、室蘭工大院・教授

13:20 アメリカにおける薬学教育の特色
藤原 亮一 ノースイースト・オハイオ医科大薬・助教

13:40 新6年制を基盤に薬剤師-研究者（Pharmacists-Scientists）の輩出を目指す！
原 英彰 岐阜薬科大・学長

座長 山崎 真巳 日本学術会議第二部会員、千葉大院薬・教授

13:55 生命科学の新時代における薬学教育のあり方
藤尾 慈 大阪大院薬・研究科長

14:10 徳島大学における6年制1本化の経緯と目指すところ
小暮 健太朗 徳島大院医歯薬・教授

座長 徳山 英利 日本学術会議連携会員、東北大院薬・教授

14:25 金沢大学薬学系の人材育成方針とその実現に向けた取組み
国嶋 崇隆 金沢大院医薬保・教授

14:40 未踏薬学領域の開拓を目指す5年一貫制博士課程
―学生は「教わる」から「学ぶ」へ、教員は「教える」から「支援する」へ―
加藤 博章 京都大院薬・教授

座長 武田 真莉子 日本学術会議連携会員、神戸学院大薬・教授

14:55 東京薬科大学が進める博士課程高度化への取り組み
～未来医療創造人育成プログラム「BUTTOBE」のご紹介～
林 良雄 東京薬科大薬・教授

15:10 医・歯・薬　同時改訂コア・カリの今、医療系学部として薬学教育の進むべき道は！
政田 幹夫 福井大医・名誉教授、大阪薬科大・名誉教授

15:25 休憩

座長 眞鍋 史乃 日本学術会議連携会員、星薬科大薬・教授、東北大院薬・教授

15:30 大きく変貌する社会で活躍する薬学系人材の養成（仮）
境 啓満 文部科学省高等教育局医学教育課・課長補佐

15:45 社会が求める薬学人材
太田 美紀 厚生労働省医薬・生活衛生局薬事企画官

16:00 製薬企業の現状と薬学部卒生・薬剤師活躍への期待
吉田 力 第一三共株式会社渉外部長

16:25 パネルディスカッション
モデレーター 武田 真莉子、永次 史
パネリスト 講演者全員

17:15 閉会の辞 太田 茂 日本学術会議連携会員、和歌山県立医科大・教授

2022/11/26 sat.

オンライン開催

参加無料　事前にリンク先よりご登録をお願いします。
https://forms.gle/h2uUg69Fp7qNme4W9

お問い合わせ　実行委員長：永次 史 東北大学 多元研・教授
E-mail sympo.pharm@gmail.com

【主催】日本学術会議薬学委員会化学・物理系薬学分科会、薬学委員会薬学教育分科会、公益社団法人日本薬学会　【共催】日本生命科学アカデミー

令和４年度　日本学術会議中国・四国地区会議　学術講演会

VUCA時代における諸課題への分野横断的アプローチ

参加費無料

どなたでもご参加いただけます

現地参加
会場定員 **70名**

Zoomによるオンライン
配信も行います

開催日時・会場

令和4年
11月26日(土)
13:30～17:10

香川大学 **オリーブスクエア 多目的ホール**
香川県高松市幸町1-1

申込方法

定員となり次第、現地参加の受付は終了します

現地参加、Zoomによるオンライン参加とも11月22日(火)までに下記URLまたは右のQRコードより、事前申し込みをお願いします。

https://forms.office.com/r/R4DHD2gXFJ

現代は、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字からVUCA時代とも称されます。こうした現代社会が直面する様々な課題に対しては、異なる分野の知見を組み合わせることが解決の足がかりになると期待されます。本講演会では，VUCA時代における分野を横断した様々な課題に対して学術的にどのようにアプローチできるか、また、分野横断的なアプローチがこれらの課題に対して、どのような新しい解を見つけ出すことができるのか、その成果を報告します。

program

開会挨拶　13:30～13:45
髙村ゆかり（日本学術会議副会長、東京大学未来ビジョン研究センター教授）
筧　　善行（香川大学長）

趣旨説明　13:45～13:50
堤　　英敬（日本学術会議連携会員、香川大学法学部教授）

講　　演　13:50～17:00
創発的アプローチの重要性と実践への取り組み ～ 板谷和彦（香川大学地域マネジメント研究科教授）
ICF（国際生活機能分類）と新しい能力観を考える ～ 坂井　聡（香川大学教育学部教授）
医療の高度化と生命をめぐる法的課題 ～ 平野美紀（香川大学法学部教授）
15:20～15:30（休憩）
地方のまちなか再生をめぐる分野横断の必要性と課題点 ～ 西成典久（香川大学経済学部教授）
災害軽減のための分野横断的アプローチ ～ 梶谷義雄（香川大学創造工学部教授）
高齢者にとっての災害公営住宅の暮らしやすさ ～ 中島美登子（香川大学創造工学部准教授）

閉会挨拶　17:00～17:10
相田美砂子
（日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議運営協議会代表幹事、広島大学特任教授・学長特命補佐）

お問い合わせ先：香川大学 学術部研究協力課　　TEL：087-832-1311　　E-Mail：vuca-h@kagawa-u.ac.jp

※ 新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期・中止・開催方法の変更等の措置をとる場合もあります。また、感染拡大予防ガイドライン等に基づく適切な感染防止策を講じます。（参加者には、マスクの着用など、感染拡大防止対策の徹底に御協力いただきます）
※ 駐車場がありませんので、公共交通機関もしくは周辺のコインパーキングをご利用下さい。

主催：日本学術会議中国・四国地区会議、香川大学

IYBSSD2022

公開シンポジウム
「SDGsと結晶学」

■日時：令和4年（2022年）11月27日（日）11:00～13:00
■場所：関西学院大学西宮上ケ原キャンパス　B号館　【参加無料】
（兵庫県西宮市上ケ原一番町１-155）

2022年が持続可能な発展のための国際基礎科学年（The International Year of Basic Sciences for Sustainable Development（IYBSSD）2022年 6月30日～2023年6月30日）となったことを受けて、日本結晶学会令和4年度年会において、「SDGsと結晶学」のテーマで公開シンポジウムを開催いたします。物理・鉱物、化学、生物の３分野より講演者をお迎えして最先端の研究成果をご報告いただきます。基礎科学の一分野である結晶学の立場・視点からSDGsについて分野横断的に理解と認識に深めて、人類の未来のためにどのような貢献ができるのかひとりひとりが考える好機とすることを趣旨とします。

■プログラム（*日本学術会議連携会員）

11:00　趣旨説明
上村　みどり*（情報計算化学生物学会CBI研究機構量子構造生命科学研究所所長）

11:10　結晶化促進分子を用いる金属酵素のOn-Site Microcrystallisation
荘司　長三（名古屋大学大学院理学研究科教授）
座長：上村　みどり*（情報計算化学生物学会CBI研究機構量子構造生命科学 研究所所長）

（11:40-11:55　休憩）

11:55　無機層状結晶の特徴を活かした水分解光触媒系の構築
前田　和彦（東京工業大学理学院教授）
座長：小島　優子*（三菱ケミカル株式会社分析物性研究所主幹研究員）

12:25　ガラスの相転移の研究とSDGs？
船守　展正（高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所放射光実験施設施設長）
座長：高橋　功（関西学院大学理学部教授）

12:55　閉会の辞
高橋　功（日本結晶学会令和４年度年会プログラム委員長、関西学院大学理学部教授）

■参加方法：事前申し込み不要
■お問い合わせ：年会実行委員会　crsj2022query@ml.kwansei.ac.jp

主　催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、
化学委員会IUCr分科会、一般社団法人 日本結晶学会
後　援：関西学院大学

日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同植物科学分科会主催

連続公開シンポジウム

SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦

第4回 植物科学からサステイナブルな農業生産・ものづくりへ

2022年 11月29日（火）

参加費無料　事前参加申込制

ウェブ開催　どなたでも参加できます。
https://forms.gle/uHLfnhb9WDmxSXwY7

13:00～13:20
開会の辞：　倉田 のり
（日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所名誉教授）
来賓挨拶：　松山 旭
（日本農芸化学会会長，キッコーマン株式会社取締役常務執行役員）
趣旨説明：　村中 俊哉
（日本学術会議連携会員，大阪大学大学院工学研究科教授

13:20～13:50
「作物と微生物叢を同時改良するホロゲノム選抜法の開発」
岩田 洋佳（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
座長：丸山 明子（日本学術会議連携会員、九州大学農学研究院准教授）

13:50～14:20
「作物頑健性に寄与する根圏ケミカルワールドの機能」
杉山 暁史（京都大学生存圏研究所准教授）
座長：森田（寺尾）美代（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構基礎生物学研究所教授）

14:20～14:50
「木質バイオマス生合成の分子的理解とその応用に向けて」
大谷 美沙都（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）
座長：佐藤 豊（日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授）

15:00～15:30
「植物ホルモン生合成・シグナル伝達の理解からバイオマス生産向上へ」
榊原 均（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）
座長：稲葉 靖子（日本学術会議連携会員、宮崎大学准教授）

15:30～16:00
「ゲノム編集で新しい植物を創る・新しいものを造る」
刑部 祐里子（東京工業大学生命理工学院教授）
座長：三村 徹郎（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任研究員）

16:00～16:30
パネルディスカッション
「植物研究は、SDGs達成にどのように貢献するか」

16:30～16:35
閉会挨拶：　山崎 真巳（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院薬学研究院教授）

後援：
日本農芸化学会
日本植物生理学会
日本植物バイオテクノロジー学会
日本生物工学会
日本育種学会
日本土壌肥料学会
大阪大学大学院工学研究科

お問い合わせ：
日本学術会議農芸化学分科会シンポジウム事務局
amaru@agr.kyushu-u.ac.jp

日本学術術会議　公開シンポジウム
主催：日本学術会議 薬学委員会 医療系薬学分科会
公益社団法人日本薬理学会

品質保証と創薬研究

報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」をふまえて、創薬研究に関わる薬理系領域における品質保証の重要性と、これらの分野で貢献できる人材の育成について多角的に議論します。

日時：令和４年１２月２日 8:30-9:45

第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会（JPW2022）

場所：パシフィコ横浜

座長

合田 幸広　（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所 所長）

関野 祐子　（日本学術会議連携会員、NPO法人イノベーション創薬研究所 理事長）

シンポジスト ＊主催分科会委員

合田 幸広＊（国立医薬品食品衛生研究所）

黒川 洵子＊（静岡県立大学薬学部 ）

吉永 貴志　（エーザイ株式会社）

堤　康央＊　（大阪大学大学院薬学系研究科）

申し込みフォームはこちら

お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をお知らせいたします。お問い合わせは、kendaibip@u-shizuoka-ken.ac.jpまでお願いいたします。

PROGRAM

開催趣旨：薬学における創薬研究のベースには、医療の再現性を保証するための品質保証があります。ですので、社会のニーズに合致した革新的な医薬品を創出するためにも、薬学の根幹にあるモノの品質保証の考え方が重要です。第24期日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会では、2019年６月～９月に、全国薬学部を対象にアンケート調査「食品・医薬品の品質保証に関する薬学教育の実態調査」を実施しました。その結果、モノの品質保証を担当する分野は、薬理学をも包含する広義の医療系薬学分野であることが明らかになりましたが、現在の薬学教育では「品質の定義」や「品質保証」、「CMC」等に対する教育が十分ではない傾向が見られました。このような背景から、日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会では、報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」を発出しました。このシンポジウムでは、本報告をふまえて、創薬研究に関わる薬理系領域における品質保証の重要性と、これらの分野で貢献できる人材の育成について多角的に議論することを目的とします。

座長

合田 幸広　（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所 所長）
関野 祐子　（日本学術会議連携会員、NPO法人イノベーション創薬研究所 理事長）

趣旨説明

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所）

講演（敬称略）

１．報告「品質保証に係るモノからの健康・医療へのアプローチ」について

合田 幸広（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所）

２．品質保証と薬理学教育

黒川 洵子（日本学術会議連携会員、静岡県立大学薬学部 ）

３．品質保証と創薬開発

吉永 貴志　（エーザイ株式会社、高度バイオシグナル安全性評価部部長）

４．アカデミアにおけるRS人材の育成　～大阪大学を例に～

堤　康央　（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院薬学系研究科）

総合討論　司会

関野 祐子（日本学術会議連携会員、NPO法人イノベーション創薬研究所 理事長）

※CMCとは: 医薬品の品質保証を統合的に考える概念で、chemistry, manufacturing and controlの略。、医薬品の設計から製造プロセス、品質評価まで含めて、その情報およびそれらに関連する領域の総称）
※RSとは: 科学技術の進歩によって生み出されたものを、真に人間の利益にかなうよう調整するためのサイエンス。regulatory scienceの略。

日本学術会議公開シンポジウム

人口減少時代の地域のかたち

日時
2022.12.4 日 13:30-16:45

会場
日本学術会議 講堂 対面 / オンライン 併用

〒106-8555　東京都港区六本木 7-22-34
［アクセス］東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5 番出口より徒歩 1 分

参加費無料

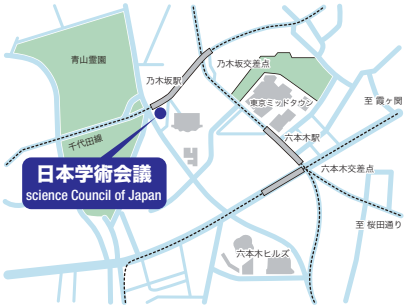
人口減少は世界の先進国共通の課題です。日本も例外ではありませんが、その発現の仕方は地域によって大きく異なります。過疎地域や限界集落といった用語が一般化したように、従来は農山村や地方都市といった文脈で人口減少が取り上げられることが多かったのですが、東京をはじめとする大都市圏においても人口減少が社会や経済に小さくない影響を及ぼしています。こうした地域的問題を考察し、今後の地域社会・経済の行く末を展望する学問分野として「地域学」が注目されています。そこで本シンポジウムでは地域学の視点から人口減少時代における地域の多様なかたちについて、幅広い市民・国民の皆様と議論を深めます。

事前参加申込制（どなたでもご参加いただけます）

参加申込方法

参加をご希望の方は、11 月 28 日（月）までに下記 URL または QRコードより事前申込みをお願いします（対面・オンラインとも）。なお本シンポジウムは対面を基本とします。オンライン併用は、遠方からの参加者のため補助的手段にすぎないことを予めご了解ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfPGRqM_veJPCwVculb-Ud0Jcdp-gOVbr7FHYdt2YWl839VgA/viewform?usp=pp_url



［主催］日本学術会議地域研究委員会・地域学分科会
［後援］地理学連携機構、人文･経済地理関連学会協議会
［問い合わせ先］日本学術会議地域研究委員会・地域学分科会委員長　宮町良広
E-mail: ymiya@oita-u.ac.jp

〈司会〉小林　知（学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所教授）

開会あいさつ

小長谷有紀（学術会議会員、独立行政法人日本学術振興会監事）

招待講演

少子化・人口減少にむかう国家と地域
――地域学の視点から
山下祐介（学術会議連携会員、東京都立大学人文社会学部教授）

百年まちづくり企業の住み続けられる地域のつくり方
東浦亮典（東急株式会社常務執行役員）

分科会報告

人口減少下の「選択される地域」
――「企業の地域学」の展開をめぐって
佐無田光（学術会議特任連携会員、金沢大学人間社会研究域経済学経営学系教授）

多文化教育と地域学
池口明子（学術会議連携会員、横浜国立大学教育学部准教授）

人口減少時代における地域学の学び
井口　梓（学術会議連携会員、愛媛大学社会共創学部准教授）

総合討論

コーディネーター：田原裕子（学術会議連携会員、國學院大學経済学部教授）

閉会あいさつ

宮町良広（学術会議連携会員、大分大学経済学部教授）